

電條云、一名蟻、一名𧈧、蟻已上出兼名苑。按禮記月令孟夏之月𧈧蟻鳴注、𧈧蟻、蛙也。兼名苑蓋本於此。顏師古注急就篇亦云蟻一名𧈧、蟻然則𧈧蟻電之別名、非𧈧墓之一名。然呂覽高注以𧈧蟻爲𧈧墓、統言之也。源君從之。以蛙、𧈧墓爲一物故引兼名苑。蟻一名𧈧蟻、改爲𧈧墓。一名𧈧蟻也。按月令釋文引崔邕章句、以𧈧爲𧈧蟻、以蟻爲蛙。郝懿行曰、蛙與𧈧蟻並以立夏後鳴故諸家異說、唯廣雅云、𧈧蟻、𧈧蟻也。此說得之。蟻、𧈧字同見於說文、蟻、𧈧聲轉、故其字通。諸家紛如不足辨矣。然則𧈧蟻其實非蟻、又非𧈧墓也。廣本國作𧈧、按音腫與廣韻合、在二十一麥、國在二十五德、作國恐誤。按說文、𧈧、𧈧蟻也、以蟻爲𧈧異文、𧈧短狐也、並非此義。略 中廣韻斗下有蟲字、爾雅、科斗活東、孫氏本之、按玉篇𧈧字注云、𧈧蟲、軸部無蟲字、𧈧蟲俗活東字耳、舍人本作顆東、科斗活東顆東、俱雙聲字也。略 中廣韻同、郭璞注爾雅科斗活東云、𧈧墓子、孫氏蓋本之、玉篇𧈧蚪、𧈧東子也、恐子上脫、𧈧墓二字、𧈧蚪亦俗科斗字、李時珍曰、𧈧斗狀如河豚、頭圓身上黑色、始出有尾無足、稍大則足生尾脫、今俗呼於玉杓子。

〔類聚名義抄十〕𧈧墓選摩二音

〔物類稱呼二動物〕𧈧蟆かはづかへる 仙臺にて、びつ。と云、西國にて、びきと云、唐津にて、たんなん。びきと云、土佐にて、ひき、又おんびき、又ゑやくらうなど、云、又一種小さく青色にして、木竹の枝に棲ものを、關東及畿内にて、土鴨あさがへると云、九州にてほとけびき、又あまびきといふ、唐津にては、あを。びきと云。下

〔重修本草綱目啓蒙二十八下〕𧈧墓 カヘル和名 ツチガヘル 同上 カハキス 古歌 カハズ
京 カイル○同上、佐渡 オンビキ シヤクタラウ クソヒキ ヒキ共同上 クソガヘル
備前 ○ ピキ西國 ピッキ仙臺

𧈧蟆ニ限ラズ、蟾蜍モ遠處ニ移セバ必還リ來ル、故ニ皆カヘルト呼ブ、此類ノ形小ク體瘠テ、脚細長ナルヲカワズト云フ、皆水中ニ住ミ、夏夜鳴クコト聒シ、品類最多シ、